

会議録

令和6年5月21日提出

会議の名称	西東京市公民館運営審議会 令和6年度第10回定例会
開催日時	令和7年3月19日(水) 午後6時30分から午後8時30分まで
開催場所	柳沢公民館 視聴覚室
出席者	委員：西原みどり(会長)、小須田厚子(副会長)、辻康一、荒井茂、小池教之、下坂小百合、石川健、青木美紀子、ギログリー江美、松本静、荒井容子 職員：福所館長、市川事業係長(柳沢)、山本分館長(田無)、根岸分館長(芝久保分館長)、一之瀬分館長(谷戸)、安島分館長(保谷駅前)、星野事業係主任
欠席者	高橋浩一、城石雅行、高井正
議題	1 審議事項 (1) 令和6年度第8回定例会会議録(案)について(資料1) (2) 令和6年度第9回定例会会議録(案)について (3) 令和7年度西東京市公民館事業計画について(資料2) 2 主催事業について (1) 令和6年度公民館主催事業報告について(資料3) (2) 令和7年度公民館主催事業計画について(資料4) (3) 令和7年度まちなか先生について 3 報告事項 (1) 行政報告 (2) 公民館だより編集室報告 (3) 東京都公民館連絡協議会委員部会運営委員会報告 4 事務連絡及び情報交換 (1) 令和6年度第2回利用者懇談会について (2) 令和7年度東京都公民館連絡協議会定期総会代議員の選出について (3) 西東京市公民館運営審議会ハンドブックの改訂について (4) 公民館サポーターについて (5) その他
会議資料の名称	【配布資料】 資料1 令和6年度第8回定例会会議録(案) 資料2 令和7年度西東京市公民館事業計画(案) 資料3 令和6年度公民館主催事業報告書 資料4 令和7年度公民館主催事業計画書
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
傍聴者	☒ あり(1名) ☐ なし

会議内容

1 審議事項

(1) 令和6年度第8回定例会会議録(案)について(資料1)

●令和6年度第8回定例会会議録(案)について(資料1)承認

(2) 令和6年度第9回定例会会議録(案)について

●令和6年度第9回定例会会議録(案)については、各自内容を確認し1週間を目途に修正意見を事務局に送ることとする。

(3) 令和7年度西東京市公民館事業計画について(資料2)

●令和7年度西東京市公民館事業計画(案)について変更点の確認

・事業名が具体的過ぎるなど委員からの指摘のとおり適切な表記に変更

○A委員

公民館運営審議会で審議する際に、それぞれの事業が新規・継続・廃止したものなのか、例えば「継続」であれば講座等アンケート結果に基づき、さらに強化した内容や他の事業に配分をしたため、回数の見直しをしたなどの説明や資料があると委員も審議しやすい。

○事業係長

令和8年度事業計画（案）作成の際に検討する。

○B委員

令和7年度事業計画について、全体的に高齢者対象の事業が少ない印象がある。また、ロシアによるウクライナ侵攻やイスラエル・パレスチナ紛争による悲劇は今なお続いており、平和事業など大きな問題として意識して企画・検証をお願いしたい。

○事業係長

社会問題を考える講座など、市民企画事業とのバランスを考えて追加検討する。

○公民館長

今年は、戦後80周年を迎える。市長施政方針でも恒久平和の取組について掲げており、公民館も発信していく。

2 主催事業について

(1) 令和6年度公民館主催事業報告について（資料3）

○C委員

「インクルーシブな社会をめざす講座ボッチャ講習会」（谷戸）について、参加者の保護者が障害児を気にされて初回で辞退された。もう少し、社会で暮らしにくさを感じている方への配慮など工夫ができたのではないかな。

○B委員

趣味講座「初心者のためのウクレレ講座」（ひばりが丘）について、募集人数が14人に対し申込者数が73人、とても人気だったことが伺える。今後、公民館で活動しているウクレレ団体に声掛けをして初心者指導を担ってもらい、参加者を増やすこともできるのではないかな。

○事業係長

講座後、サークルが立ち上がった。今後の展開に期待している。

○D委員

各館もしっかり取り組んだ内容が事業報告書に書かれている。夏の中学生ボランティア(SDGsサポーター編)(田無)の事業報告書には、地域の大人たちと一緒に活動された学校名と人数が記載されており、色々な所に声掛けを行い、西東京市をしっかり開拓しているのが分かる。今後は、色々な学校を巻き込んで、さらに学生ボランティアを広げて欲しい。

○公民館長

令和6年度公民館(6館)における学生ボランティア活動について報告する。中学生が160人、高校生70人、大学生13人、親子で参加した小学生1人、合計244人の参加があった。教育施設として、教育実習生5人、中学生職場体験32人が関り、多世代交流につながっている。

○E委員

田無第一中学校では、ボランティア活動をした生徒が、お昼の校内放送で報告している。職場体験については、今回、特別支援学級の生徒を公民館や図書館などをお願いをした。

○B委員

「女性のための講座」（ひばりが丘）の担当者考察を読むと、とても丁寧に事業を行っているのが分かる。「曜日別活動サークル1日ロビー見学体験会」（田無）は参加人数が多く、成果が伺えるが、芝久保公民館の同様の事業は参加人数が少ないので、他館からアドバイスをもらい色々な工夫が必要であると感じる。

○C委員

「女性のための講座後期」(保育付き)(ひばりが丘)について、受講者に保育室運営会議への参加を呼びかけ、講座の学びと保育室の学びが共鳴していることが伝わってくる。これがきっかけ

けとなって保育付き講座の参加者が増えると思う。また、保育付き講座に預けている子どもの月齢が主催事業報告書に記載していると現在の状況や動向が見られて分かりやすいと思う。

○D委員

西東京市不登校情報ネットワークハートライン♡にしとうきょうとの共催事業、「子どもの課題を考える講座不登校の子どもに寄り添うために～親の役割を考える～」(ひばりが丘)について、当日の様子を報告してほしい。

○事業係長

会場とオンラインのハイブリッド型で実施した。少人数のグループでじっくりと不登校の子どもの気持ちや行動の理解などについて話し合った。また、学校メール配信システム(すぐーる)で発信したこともあり、多くの反響があった。

○F委員

不登校の子を持つ保護者には、案内(チラシ)が届きにくい。学校メール配信システム(すぐーる)で発信したことで、悩みや不安を抱える保護者と繋がり、大変良かったと思う。

○G委員

不登校もしくは不登校傾向の状態にある児童・生徒は、就学や就労をせず、自宅以外での生活の場が失われてしまうことが懸念される。若年者に対し、西東京市教育相談などは連携しているのか。

○F委員

学校の先生方もスクールカウンセラーを通して、西東京市教育相談などの公的機関を紹介しているが、なかなか当事者である保護者同士が繋がらない。

○D委員

学校に登校していない、家から外に出ない等の状態を持つ保護者には、様々な相談窓口があった方がよい。不登校の子を持つ保護者がつながる場の一つとして、西東京市不登校情報ネットワークハートライン♡にしとうきょうがある。公民館の「不登校」講座は、大学教授や社会福祉士、精神保健福祉士などの様々な講師を依頼して実施している。

○公民館長

西東京市教育相談などの公的機関だけでは解決しない。そのために児童・生徒、保護者の方が、相談ができる様々な支援機関がある。現在、地域共生課では、ひきこもりやニート状態にある市内在住の中学3年生から29歳までの若者に対し、自立に向けた支援を行っている。来年度は、年齢要件を緩和した相談窓口の開設を予定している。

○E委員

児童・生徒が利用できる相談窓口は、多くあり役に立っている。今回、公民館が実施した様々な不安や悩みを抱えて毎日を過ごしている同じ悩みを持つ保護者の方々の横の繋がりができたことは、良いと思う。

○事業係長

公民館としては、当事者の横のつながりが作られる場、情報共有がなされる場の一つとして実施している。また、学校周辺の自主グループと共催することで、学校や関係者に直接相談するのとは違った形で参加できる場所(講座)、という側面も大切にしている。

(2) 令和7年度公民館主催事業計画について(資料4)

○B委員

「子育て中の女性のための講座」(保育付き)(田無)について、子育て世代と親世代(孫育て)の交流の場と記載されているが、どの様に幅広い世代の参加を促しているのか。

○分館長(田無)

タイトル以外にリード文で親世代(孫育て)に対し、概要を簡潔にまとめ、内容を伝えている。また、親世代であっても保護者が子育て中の方で、公民館保育の月齢などの条件に該当すれば、保育付きで学ぶことができる。

○C委員

「子育て中の女性のための講座～来春までに、私と子どもと暮らしを整える～」(ひばりが丘)について、現在、2年程で育休から職場復帰するイメージの女性が増加している。事業名に

「来春まで」と記載されているが、急かされている感じがする。また、「整える」の文字は、現在すでに子育てをしている方も、これから子育てを始める方も馴染みやすい言葉なのか。

○D委員

若い世代の「整える」は、子どもと保護者がストレスなく生活できる環境づくりの言葉ではないか。

○事業係長

「来週まで」という表現には、仕事復帰を控え本当にこの一年間で整えなければならない状況に直面している当事者に対しては、明確な目標設定と達成のイメージを促せるということでポジティブに響くのではないか。「整える」については、言葉の意味を再度考え、副題を「私と子どもの暮らしを整える」に変更するか担当者と相談する。

○B委員

「子育て中の人のための講座」（保育付き）（芝久保）は、母親が自分より家庭を優先し自分を見失うという、子育て世代（孤独な子育て）が指摘されて以来の問題を、継続して位置づけている点が、今回の他の講座と異なっている。他の講座は、子育て中の時期をいかに乗り切るかという観点が強く、そこが「整える」というハウ・ツールの的にも聞こえるところかと思う。D委員がおっしゃる意味で「整える」という言葉をとらえると、子育て中に「自分自身を見失う」という傾向が減ってきているのかとも思う。また、父親は子育てと自分の生き方をどう分け関連させているのか、一人で子育てしている父親は孤独な子育ての課題を抱えてはいないのか。改めて、公民館で子どもを預けて学ぶ人たちの「学び」を支える課題は何か、その方法はと考えていく必要があるように思う。

○C委員

不安を解消するよりは、まずは不安を受け入れる形になっているのではないか。

○B委員

各館の子育て中の世代を支える事業として、それぞれ工夫して展開しているので、講座後の成果や保育事業研修など、次につなげていくと課題が見えてくるのではないか。

○A委員

あめんぼ青年教室（田無）、くるみ学級（柳沢）について伺いたい。

○分館長（田無）

市内には様々な障害者を受け入れる施設が多くあり、利用者が自主的に活動できる選択肢が増えてきている。卒業制度はなく、毎年、決まった人数を受け入れることはできないが、欠員があれば募集している。

○H委員

学級生の自主的な活動の場をボランティアスタッフや支援員と一緒に楽しみながら、様々なプログラム内容で学んでいる。

○B委員

くるみ学級（柳沢）のコアクラス、たんぽぽクラスのボランティアスタッフと支援員は、どちらも有償か。

○事業係長

どちらの学級も有償で活動している。

○B委員

障害者青年教室については、もともと 1960 年代末に養護学校の卒業生を受け入れる学びの場として墨田区の社会教育事業から始まった。多摩地区では町田市の公民館が先駆けとなり、作業所で重度の障害をもった青年たちが放置されている姿に問題意識をもって、自主的な学びを展開していくための障害者青年学級として発展させていった。その流れを西東京市は追ってきたのだと思う。現在、障害者自身が他の施設等での事業と公民館での事業をどう区別しているのか、また西東京市の障害者学級はどれだけ障害者自身が考え合い、悩み、生み出していくプロセスを保障しているのか、については再度確認しておくべきではないか。昔に比べて障害者の「学び」の場、自主的に参加できる活動の場が増えているとのことなので、ここで改めて公民館ならではの障害者対象事業のあり方を考えていく必要があると思う。

(3) 令和7年度まちなか先生について

○公民館長

令和7年度のまちなか先生について、校長会で募集を募った。公民館としては、引き続き地域を知る「西東京市カルタ」「平和」「防災（地震）」の3テーマで学校と調整を行う。

3 報告事項

(1) 行政報告

○公民館長

令和7年第1回西東京市議会定例会が2月25日に開催された。公民館への質問は、施政方針から学生ボランティアの活躍の状況など4件あった。また、予算特別委員会では、令和7年度予算について審議中である。

(2) 公民館だより編集室報告

- 担当委員より、4月4日開催の公民館だより編集会議について報告。いままでの公民館だよりを刷新して、全面カラー版になる予定。

(3) 東京都公民館連絡協議会委員部会運営委員会報告

- 担当委員より、3月13日に開催された委員部会運営委員会について報告。
2月8日に国立市で開催された第61回東京都公民館研究大会、第62回東京都公民館研究大会、関東甲信越静岡公民館研究大会関東大会について紹介。

4 事務連絡及び情報交換

(1) 令和6年度第2回利用者懇談会について報告

(2) 令和7年度東京都公民館連絡協議会定期総会代議員の選出について

(3) 西東京市公民館運営審議会ハンドブックの改訂について

(4) 公民館サポーターについて

(5) その他

第37回「谷戸まつり」について、4月26日27日に開催予定。

令和7年度第1回定例会の開催について

日時：令和7年5月21日(水) 午後6時30分

場所：柳沢公民館 視聴覚室